

観天 望気

農林水産業と風の時代

200年続いた地の時代から、風の時代に既に移行し、2024年からはそれがいよいよ本格化するといわれている。

地の時代とは、目に見える物質、所有、安定固定蓄積、組織、成功上昇など。風の時代とは、目に見えない情報、体験、共有、移動革新循環、個人、協力、幸福など。資本主義から文化の時代へ、ともいわれる。

農林水産業の頭でこれらの単語を眺めると、地の時代にはじっくりくるが、さて風の時代ではどうだろうか。えーと、とつぶやいたままなかなか先に進まなそうである。

ここは一つ、産業という文字を取り払って見てみよう。そもそも農林水産業は、産業という巨大な枠を背負っているのだろうか。

風の時代の言葉に、農や林、水を絡めてみると、あら不思議、むしろ真ん中で最も大事なものとして座りがよい。

私は常々、仕事は小さいほどやりがいがある、と言っている。皆さん大きく考えなくてはいけないというバイアスが染み付いている、と思う。大きくなるとどうしても分業になり、自分が部分になる。

小さければ、すべてみずからの発想と手で完結できる。陶芸家も盆栽作家も一人である。世界中にスマートフォン愛用者がいるリングの会社も、個人のガレージから小さく生まれた。

風の時代の産業は、顔が見えて、驚かれて、感謝されて、わざわざ会いに来られて、友達になって、交換して、幸福を発見して。

家族といえど、一人ひとりが小さく幸福を自立させて、それが集まって家族であったり、幸福を自立させた個人が集まって、また組織をつくってみたり。

気がつくくと、それらを風が遠くの遠くまで、運んでくれるに違いない。

あーうらやましい、農林水。



遠山 正道

株式会社スマイルズ 代表

とおやま まさみち
1962年生まれ。三菱商事初の社内ベンチャーであるSoup Stock Tokyoの創業者。The Chain Museum代表。個人会社「とおい山株式会社」では小さくコンサルもおこなっている。